

平成28年度 1月号



新座市立第二中学校  
新座市野火止 7-17-10  
電話 048-477-1212

# 新座二中だより

<http://www.c-niiza.ed.jp/j-daini/>

**基礎・基本を大切に 発展・応用できる力をはぐくみます**

校長 田村 和昭

## 酉の年

酉の年、あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

2017年（平成29年）は酉年で、動物にあてはめると鶏（にわとり）になります。

「とり」は「とりこむ」と言われ、商売などでは縁起の良い干支と言われます。



## 基礎・基本と発展・応用

さて、よく耳にする生徒の学習相談に「計算問題はできるが、応用問題は苦手」というのがあります。また、「基礎学力が身に付いていることと、生活上の課題に対応する力は全く別物である」という大人の意見に触れることもあります。

しかし、私は発展や応用というものは、基礎、基本の組み合わせから成っていると考えています。

## 「守破離」

「守破離」（しゅ・は・り）と言う考え方があります。「守破離」は、日本での茶道、武道、芸術等の日本文化において、発展、進化してきた創造的な過程のベースとなっている思想です。

まずは師匠に言われたこと、型を「守る」

校訓 まごころ 学校像 真理を胸に刻む学校 ともに夢を語る学校

ところから修行が始まります。その後、その型を自分と照らし合わせて研究し、より良いと思われる型をつくることにより既存の型を「破る」こととなります。最終的には師匠の型と自分自身が造り出した型の上に立脚した個人は、自分自身と技についてよく理解しているため、型から自由になり、型から「離れて」自在になることができるというものです。

## 学びの原点

算数・数学科授業の特質を例に挙げ、学びの「守破離」について考えてみます。

算数・数学には、内容の系統性・発展性が明確であるという教科としての特徴があります。数量や図形についての知識や技能が、ある場面で突然現れるということは少ないといえます。つまりこれまでの学習活動を、自然に発展させたものとして捉えられることが多いといえるのです。

新しい内容を学習する際には、それまで学習してきたことを基にして、それに積み重ねそれを発展させる形で学習が進んでいきます。この特質を生かすことで、子どもの自ら工夫したり、考えたりする力を高めていきます。

その結果、生徒は学習した内容を実生活の事象に結び付けたり、また実生活から算数・数学の問題を見いだしたりすることによって、算数・数学の意味を一層明らかにしたりその有用性を実感したりするようになります。

この縁起のよい年に子どもたちが大きく飛躍するよう努めてまいります。